

結核病治療ノ最近進歩 : Neue Fortschritte für die Tuferculose-Behandlung

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38366

十全會雜誌

第六拾四號

原籍及實驗

●結核病治療ノ最近進歩 (中)

Nene Fortschritte für die Tuberculose-Behandlung.

ドクトル 竹中繁次郎

前回ニ於テ余ハ食養衛生の所置ノ大略ヲ實地的ニ説明シマシタ、此食養衛生の所置ハ要スルニ機會ヲ除ク學理ヲ其儘應用シタノデ、人烟稀ナ、四面仙風ノ山間ニ患者ヲ隔離シ、從ツテ自己ノ再感染ハ勿論他人ニ危害ヲ與ヘナイ注意ノ外、患者ノ營養ヲ高メ、結核菌ニ對スル體質ノ抵抗力ヲ強カラシムル方法デア、近來、他方ニ黴菌學殊ニ血清學ガ長大ノ進歩ヲ呈ハシ直接ニ該患者ノ體質ヲ強カラシムル方法ノ益々完美ニ達シタ結果、獨乙各處ノ「サナトリウム」Sanatoriumニ於テハ彼ノ衛生食養の所置ト同時ニ「ツベルクリン」ヲ應用スルニ至ツタ、其兩方ノ併用成蹟ハ實際可長ナノテメルレル氏が成蹟ニヨルト、單純食飼衛生所置ニ由ル治療ハ

一〇、九%「ツベルクリン」併用成蹟ハ三六、三%ナリト云ツテ居ル其後ダ「ホアースプレレンゲル氏 C. Splenger in Davos」ハ各治療ノ成蹟ヲ比較シテ「ツベルクリン」ト衛生食養所置ノ兩用試驗ハ成蹟尤モ可長デ單純食養衛

生療法之ニ亞ギ「ツベルクリン」單純所置ハ前兩者ノ下ニ位シテ居ルト結論シテ居ル、兎角、近來ノ報告ハ肺癆ノ所置ニ對シ孳生食養所置ノ外更ニ「ツベルクリン」併用ヲ賞揚シテ居ルノデ、吾々ハ此「ツベルクリン」ノ所置ハ確カニ確功アルモノト信シテ居ル。

「ツベルクリン」時代 Tuberculinerae ハ西曆千八百九十年（昨年故人トナツタ）ローベルト、コホ Robert Koch ニ胚胎シタ者デ、爾來二十余年益々其研究ヤ深遠ニ入ツテ、種々ノ改正物ノ生スル様ニナツタ、故ニ「ツベルクリン」ノ名ヲ聞ケハ今尙ホ一種ノ毒液デア、如ク考フル古イ醫者モ居ローガ、實ハ「ツベルクリン」ノ名ハ結核毒素ノ總名デ、中ニ無數ノ藥劑 Präparat ナ抱圍シテ居ル名デア、就中尤モ能ク使用セラレ尤モ能ク名アルモノハ舊「ツベルクリン」Tuberculin Kochi oder altes Tuberculin ト稱スル。

舊「ツベルクリン」ハ「ツベルクリン」製劑中尤モ早ク發見セラレタル者デ、全ク古弗臂頭ノ對結核製劑デア、本品ハ「グリセリン」百布頓培養器中ニ繁殖セル者ヲ煮沸殺菌シ濾過シタ製品デ、言ハジ、結核菌ノ「クリセリン」浸出越幾斯デア、其使用法ハ内服法ト注射法ト二種アル、注射法モコホ氏法トペトルシユキー氏 Petruschky 法ト二種アル、甲ハ急頓法トモ云フヘキ者デ頓ニ大量ヲ使用スル法デア、乙ハ階段所置テ少量ツ、増加スル方法アル、現今我々臨床家ノ側デハ、甲ナルコホ氏法ヲ取ル者ハ稀レデ、乙法ナルペトルシユキー氏法ニヨル者ハ多イ、乙法ハ通例反應セナイ程度デ注射スルノデ、普通舊「ツベルクリン」ノ 0,001 c.c. $\times \frac{1}{100}$ 乃至 0,001 $\times \frac{1}{10}$ c.c. ニ初アル、漸次 0,001 $\times \frac{1}{100}$ c.c. oder 0,001 $\times \frac{1}{100}$ c.c. ナ増シテ 0,001 c.c. ニ至ラシム、千分一 30 ニ至レンハ千分一 30 ツ、チ増シテ

(原著及實驗)

〇、〇一ccニ至ル、百分ノ一ccニ至レハ更ニ〇、〇一宛ヲ増シテ〇、一ニ至ル、十分ノ一ccニ至レハ同シク十分ノ一cc宛ヲ増シテ〇、五ニ至リ更ニ一ccヲ數月ノ後ニ試ムル、」時日ハ初メ隔日乃至一週二回デ、〇、〇一cc以上ニ述レハ三日乃至一週ノ隔日ヲ要シ、更ニ〇、一以上ニ至レハ週以上ノ隔ヲ要スルノデアル、上述ハ正規的ノ注射法ヲ述ベタノデ、其注射量ノ患者身體ニ適セルヤ否ヤハ患者ノ狀態ニヨルノデ、此際發熱ト體重トハ無二ノ天秤トスル、即チ發熱ハ可及的の避ケテ、體重ノ増加ヲ計ツタトキハ其量其藥品ノ適否ガ直ニ分ル、而シテ「ツベルクリン」ノ尤モヨク患者ニ奏功スルノ量ハ理論上「將ニ發熱ノ來ラントスル量」デアル「ハ覆フヘカラサル事デ、本療法ノ巧拙ノ分ル、所以デモアロー、予ハ時トシテ二三回量ヲ飛バシテ注射スル「モアルガ、ソハ全ク此理論ニ基キ患者ノ發熱ヲ避ケ得ラ、ト經驗上信ゼラレ得タル場合ノミデアル。又「ツベルクリン」ノ稀薄液ハ〇、五%石炭酸水デ十分消毒セル者ノ中ニ貯フルトキハ永ク保存スル「ヲ得ルノデアル。」次ニ内服法ニヨル本品ノ分量ハ先ツ注射ノ十倍ヲ用ユルノデ、恐ラク胃液ノ爲メニ分解セラル、結果デアル、」

「ツベルクリン」ト併ヒ賞揚セラルモノハ新「ツベルクリン」Neubacterin-可「ロ」デアル、之ハ菌体内ノ毒素テ菌ヲ器械的ニ研磨滅殺セル者トスル今日細菌學上ノ試驗デハ菌体排泄ニ毒素ヲ含ミナルモノト菌体内ニ毒素ヲ有スルモノトアル、其主義デ、本製劑ハ出來上ツタノデ、其毒素ハ前者舊「ツベルクリン」ニ比シテ頗ル強イ、療法トシテ先ツ〇、〇〇〇二²/₁₀₀₀mg以下ニ初ムルヲ常トスルノデ、之レモ發熱ト體重ノ關係ヲ考量セテハナラヌ、然シ、本品ハ發熱スル「ハ舊「ツベルクリン」ニ比シテ少ナイノデ（反應ハ連リテ持續長シ）尤モ現密ニ検査ヲ要スル、其極量ハデウドンネ氏 Daud-ome ニヨレハ〇、五乃至一、〇ccmデアル唯々茲ニ注意スヘキハ新「ツベルクリン」ノ分量ハ其内ニ含マル、粉菌ノ量ニヨツテ記載スル者デ、通例、販賣サレテアル者ハ其菌粉ヲ二十%ノ「グリセリン」ヲ以テ乳劑ニナセル者

デアル、之ハ其保存ヲ十全ナラシムル目的デ、其一ccmハ十mgノ圓形物質（菌粉）ヲ有シテ居ル割合トナル其稀薄液ハ石炭酸水ニアラズシテ生理的食鹽水ヲ用ヒルノハ尤モ良イ、而シテ其液ハ左ノ方法ニヨリテ三種ノ溶液ヲ作ル

一液「之ハ根原液ヲ注射器ノ1/2即五割度（五mg圓形質）ニ充タシ、之ニ四、五ノ生理的食鹽水ヲ充セルモノニシテ、一筒ノ注射ハ一mgノ菌粉ヲ含メルモノ」（十%ニ當ル）

二液「之ハ一液ヲ1/2即五割度ニ充タシ、4/2ノ生理的食鹽水ヲ充タセル者デ各筒1/10mg圓形質ヲ含ム即チ根原液ノ1%ニ該當ス、

三液「之ハ二液ヲ注射器ノ五割度即1/2ニ取り、之ニ四、五ノ生理的食鹽水ヲ充タセルモノデ根原液ノ〇、1%ニ該當ス、今其分量ヲ更ニ上クレハ

1 Lösung : 10 Strich = 1 mg 1 Strich = 1/10 gr
2 Lösung : 10 Strich = 1/10 mg 1 Strich = 1/100 mg

3 Lösung : 10 Strich = 1/100 mg 1 Strich = 1/1000 mg

ノ固形分（毒素ヲ含ンデ居ル譯デアル、注射時及器具ノ所置ハ凡テ防腐的ニ取扱フ「ハ論スル迄モナイ他ノ毒素療法ニ於テモ同一デアル。

西曆千九百一年コホ氏が更ニ學界ニ提供シタ結核毒素カアル、即チ結核菌乳劑 Koch's Tuberkelbacillen — Emulsion ナアル、本品ハ前兩者ノ混合液トモ見做スヘキ者デアルガ、菌体内外ノ毒素ヲ同時ニ含ンテ居ル、而シテ其一ccmノ内ニ五mgノ菌物質ヲ含ンテ居ル割合デ、其使用法ハ沿毒セル〇、八%食鹽水若クハ石炭酸（〇、五%）食鹽（〇、八%）水ヲ用ヘテ稀薄セル稀薄液ヲ用ユルノデ、第一液ハ一%、第二液ハ〇、〇%、第三液ハ〇、〇%、第四液ハ〇、〇〇一%、第五液ハ〇、〇〇〇一%ニ該當ス、通例本品ハ治療ノミ用ユルノデ菌体内外ノ毒素ヲ含ミ比較的完全ノ毒素ト認メ得ラル、者デアリ、其使用量ハコホ氏ニヨレハ甚タ叮嚀デ初メ第五液ノ一ccmヲ皮下ニ注射シテ反應ノ起ルヤ否ヤヲ試ミ、其不反應ノ時ハ五倍量ニ第四液ノ〇、

五〇ニ加シ、次ニ一ccmニ至リ、更ニ第三液ニ讓ツテ 0.2; 0.4; 0.6; 0.8; 1.0 ccm. ニ及ビ進ミテ高度ノ液ニ達スルノデアル、然シ通例ハ次ノ順序ニ試トルヲ常トスル(ハンゼリル氏ハフケー氏 Bandelier-Roepke)

1/1000, 2/1000, 3/1000, 5/1000, 7/1000, 10/1000, mg.

13/1000, 2/1000, 3/1000, 7/1000, 10/1000, mg.

15/100, 2/10, 3/10, 5/10, 7/10, 10/10, mg

12/10, 15/10, 2, 2¹/₂, 3 mg

4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, mg

四乃至六乃至十日ノ間歇ヲ以テ
 五述「アケマン」ノ外 Denys' Tuberculin, Klebsche Tuberculine, Bernacks Tuberculin, Spenglers Paracanthuberculin, Endtins Tuberkulose und Tubuse, v. Behrings Oxytuberculin, Hirschfelders Tuberkuloplasmin von Buchner und Hahn, Landmann's Tuberkulol 其他數フルニ違ナイ位デアル、(以下次號)

●肺葉摘出後ノ瓦斯代謝ニ付キテ
 Ueber den Einfluss von Lungensexstirpation
 auf den Gaswechsel bei Kaninchen

東京醫科大學生理室ニ於テ

ドクトル 竹中繁次郎

緒 論

(原著及實驗)

抑モ一肺ノ作用ヲ除キテ瓦斯代謝ノ關係ヲ講究シタタル業績ハ古來餘リ多シト云フベカラズラウエル氏 Rauber (1) ハ家兔ニ人工氣胸ヲ行ヒ攝取セル酸素并呼出セル炭酸ノ減少ヲ實驗シ、ウイル氏 Wiel (2) 及トープレ氏 Thoma氏ハ千八百七十九年家兔ノ右肋膜腔ニ加々阿脂ヲ注入填充シ呼出セル炭酸ノ増加ヲ認メタリ、其後グレンハン氏 Grenant (3) カンカー氏 Quinquandノ氣管枝内ニ硝酸銀ヲ注ギ炭酸排泄ノ減少ヲ認メ更ニ又氏等ハ犬ノ肋膜腔ニ「オレフ」油ヲ注射シ初メ炭酸ノ排泄ニ變化ナキモ二十四時間ノ後減少ストセリハルレイ氏 Harley (4) ハ莫莫比捏ノ爲メニ麻醉ヲナセル犬ノ肋膜腔内ニ「ゴム」球ヲ入レテ水ヲ充タセシニ炭酸排泄及酸素ノ消耗ヲ著シク増加セリト云フ。人間ニ對シテハ先ツグレンハン氏 (5) 及カンカー氏ガ肋膜炎ノ一例ヲ見ル、肋膜炎ニ於テハ瓦斯代謝ノ著キ減少ヲ呈スルモ穿刺ニヨリテ少ク充進シ吸收後全ク舊時ニ恢復セリト云フ、但シ此成績ハ舊時ノミヨレル氏 Möller (6) ノ同一試驗ト矛盾ス、肺氣腫ニ付キテハスペック氏 Speck (7) ケンペルト氏 Gelpert (8) ニ業績アリ共ニ低價ナレドモ正常域ヲ脱ゼスト云レリ

近時生理學者間ニ肺手術ノ勵行ヲ企テ、ヨリ以來臂頭ヘルリン氏 Hellin (9) ハ家兔ノ右肺全部ヲ摘出シテ瓦斯代謝ノ關係ヲ公ニセリ

(一)時間、一基瓦ニ改算セル炭酸排泄量)

	手術前	手術後
一、家兔	一、二〇瓦 〇、六二瓦	
二、家兔	一、三瓦 一、三六瓦	
	一、四一 一、三三瓦	
	一、五四 一、五五	
三、家兔	一、三瓦	
	一、五瓦	

術後二日 一、四瓦 術後三日 一、四〇